

## 日本イラストレーター協会

## 会報

2006年

No.1

日本イラストレーター協会では、日本全国あるいは世界各地で活躍しているイラストレーターの方々の更なる飛躍となるように直接集まる機会を設けたり、JIAの活動内容や展覧会などをHPやメールでお知らせしてまいります。今年もJIAを支える理事の紹介を兼ねた会報を発行しました。2006年は、皆様の益々の御活躍と  
なりませうように。



# Jia

## Japan Illustrator's Association

## \*目次

PDF 1

はじめに  
理事挨拶 (五十音順)  
葦原いるん (東京都)

PDF 2

石井幸雄 (神奈川県)  
嘉村靖子 (新潟県)

PDF 3

佐藤比路志 (東京都)  
蟹江隆広 (東京都)

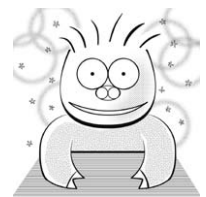
PDF 4

竹村育貴 (秋田県)  
藤本知子 (高知県)

PDF 5

会長挨拶  
蟹江隆広 (東京都)  
2006年  
行事予定

昨年より理事を拝命しております葦原いるんです。



理事 葦原いるん (東京都)

えてして個人的な人脈の開拓による横のつながりが精一杯なこの業種の方々にとって、日本イラストレーター協会がさらに広いつながりを得る一端になればと思っております。

幸いにして、当初より開催しているインターナショナル・イラストレーション・コンペティションの他にも、昨年からはJIA展が開催されるようになり、作品発表の場としてもこの協会が私たち会員にとってより有用な場になりつつあることをうれしく思います。

私個人としては、理事の名にふさわしいことをほとんどなしておりますので、そのぶんせめて参加できるところはしてこうと思っております。

今のところは、小さな交流会がいくつか開かれておりますので、これがより多くの方々の参加を得られるようになれば良いかと、参加させていただいてます。時間の都合上、食事や飲み会形式が多いことと思いますが、それだけに気楽な集まりでもあり、また参加者の皆さんが気軽に各自作品ファイルなど持ち寄って見せあっています。

今年もまたこのような企画がたつと思えますので、お時間の都合のつく方はぜひお会いしましょう。

また、会員同士の自由な交流会の企画などありましたら、ご紹介下さればと思います。

また、イラストレーター協会をWebで知った方も多いのではないのでしょうか。インターネット上での交流などアイデアがありましたらメール・リングリストなどでぜひご披露下さい。

といいつつ、私もなかなか妙案が浮かばずにいるのですが。

イラストレーション、というくり以外に取り立てて傾向の定まっているわけではないイラストレーター協会には、サイト、会員ページを見ればお分かりのように、実に様々なジャンルの個性あるイラストレーターの方々が居られます。

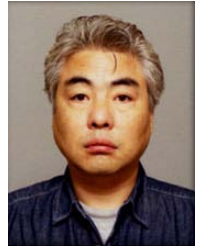
他業種他分野と幅広くお仕事をされる方でも、逆に、傾向の異なる「イラストを描く」方々との交流については意外と得難い機会ではないかと思えます。

この混然具合がイラストレーター協会の一大特徴ではないでしょうか。

今年も協会ならではの「横のつながり」を堪能し、より広めていきたいと思えます。

ひとまず、今年のJIA展でお会いできますことを楽しみにしております。





理事 石井幸雄 (神奈川県)

日本イラストレーター協会の皆様、こんにちはは石井と申します。まず、自己紹介をします。

私は東京生まれです。小さい時から絵を描くのが好きでした。でも、将来の夢はスポーツの選手や自動車の整備でした。いろいろ寄り道をしたので、イラストレーターになるまでには三十年以上の歳月がかかりました。ちなみに年齢は、最年長の五十四歳です。

1970年にヴァン・チャケットというファッションメーカーに入社して約八年間、男の小物(アパレル・グッツ)を学びました。

ZIPPPO、レイバンサングラス、スイスアーミーナイフ、ポロなどその当時は誰も知らないブランドを輸入して日本でブランドとして定着させる仕事と新しい商品開発を手掛けていましたが、1978年に会社は倒産してしまいました。当時を振り返るとワッペンや財布類、ネクタイなどは、よくイラストで表現していましたので、この頃からイラストをよく描いていましたっけ!

会社倒産後は、教社を転々して1987年にアイ・ティ・エフ・プランニングを設立しました。アンティーク時計やアンティークジッポーをアメリカより輸入して卸しをしながら時間をみては時計の裏蓋を外して内部の機械等をイラストレーションしていました。



その頃からオリジナル・ジッポーの図案と版下を頼まれて描くようになり、今日のイラストレーターをするようになりました。専門の学校へは行っていません。(若い皆様羨ましいです。)

1988年頃に当時(US\$5,498)のMacintosh IIを東急ハンズの広告企画室で初対面しました。その時のカルチャーショックは今でも覚えています。Macintosh IIは高く買いませんでしたが、1990年頃(LC)という機種がアップルから出ました。

確か、十万円ぐらいと記憶しています。確かではありません。今では考えられませんがフォトショップ2、5でA4の絵にぼかしのガウスをかけますと一〜三時間は楽にかかりました。それでも当時は画期的でした。

現在は、イラストの仕事はマックでインターネットとメールは(自作したPC)ウィンドウズ系でしています。  
\*パソコンでお困りの事がありましたらメール下さい。お力になります。

こんな話で申し訳ありませんでした。次回に書く機会がありましたら、もう少しイラストのことを書きます。



理事 嘉村靖子 (新潟県)

こんにちは、嘉村です。子供向けの絵本やイラスト、カットや奥様向けの基本的な家事などの文章を書く仕事をしています。

編集の方や学生時代からの友人、仕事をとおして出会った人々に支えられ良くしてもらい少しずつ進んでいます。PC層も短く、三歩も歩くとすぐ忘れるので、「うわあ、さうしたのか」の日々です。助け下さった皆様本当にありがとうございます。

JIAは、各分野で活躍されている方々のプロならでのお話が直接、あるいはWebなどをとおして聞けるおもしろい組織だなと思います。また、どこで仕事を進めていても様々な形で参加できます。今回の会報も、そのひとつです。どうやってコミュニケーションをとっているかなどをやりとりしていくか、まだまだたくさんの方の可能性がある楽しさもJIAならではのものと思います。

さて、この会報の限られた文字内で自己紹介と仕事や自分なりの姿勢というのを伝えるにはどう表現したら...と迷ったのですが、自分の手掛けた絵本をとおりて説明することにします。

「うそつき男しゃくあらわれる」の絵本の際は手描きでした。うそつき男しゃくをさがしたり、正直でまっすぐなうその数々からなる内容で、絵はアクリル絵具、字は製図マーカーで手描き、歌と踊り付きです。



絵本を完成させるおもしろさ、自分がどう仕事を進めていきたいかなど、いろんな面で得ることの多かった仕事です。

点字付ユニバーサル絵本の「おでかけまるちゃん」はパソコンで描きました。ノート型Macでペイント7使用です。こちらは、題名のとおりシンプルな話です。凸凹触感の印刷がされ、文字数や表現に制限のある本でしたが、点字のお話を待っていた子供達に楽しんでもらえています。

出版後しばらくすると、点字と活字が行ごとに色分けしてあるので点字入門書として、ページがめくりやすい製本で、字も大きいためお年寄りも読むという具合に点字と関係あってもなくても様々な使い方をされ、人から人へと絵本が伝わっていき現在も問い合わせをもらいます。絵本は、個人作業で出来上がるように見えますが、多くの人の協力なしでは成り立ちません。また、完成後も様々な使い方や使い方で自由に変化していくところにおもしろさがあります。

出会った人達に「嘉村と仕事をして良かったな」と思ってもらえるようにバランスよく毎日を過ごして行きたいと思えます。これからもよろしくお願致します。



理事 佐藤比路志 (東京都)

あけましておめでとうございます。歳をとるとだんだん一年があつという間に過ぎていく感じがしています。子供の頃は一年がもつと確実に長かったのですが・・・、ね。

実は私、三つの協会に属しています。仕事柄そうなってしまったのですが、それぞれの協会の持ち味があつてどれも大切なものです。

ひとつは日本グラフィックデザイナー協会、通称JAGDA(ジャグダ)と呼ばれているデザイナー協会です。会員数も多く年齢幅も広い。この協会の良さは様々な部会があることで、年鑑委員会や教育委員会、国際委員会など十二ほどの委員会がありそれぞれ活動していることです。私も創作保全委員会のメール会員としていろいろ意見を述べたりしています。このような活動を基礎にデザインのままデザイナーの環境を改善していくことにつながるわけです。

二つめの協会は日本Webデザイナーズ協会。この協会は昨年の夏に出来たばかりの協会です。ただこの協会では現在定期ミーティングと称した集まりが行われています。これはWeb業界の人の話を聴く講習会のようなものとの後親睦会がペアになった集会で、動きの速い業界だけに技術的なことや業界動向を語り合うといったスタンスで、新しい試みに関してはその中



身を知りたい、聴きたいといったデザイナーの欲求が満たされます。

三つめはもちろん日本イラストレーター協会。この協会に皆さんは何を求めているのでしょうか？デザイナーの立場から考えるとイラストという分野は一人のイラストレーターと仲が良くても常にその人とだけ仕事をしていくわけにはいきません。デザイナーならいろいろなイメージに合わせた表現やデザインが出来るのですがイラストレーターでは人を変えないと表現出来ないことが多いからです。だから現在この仕事の窓口という業務は他の協会に無い特色だと考えています。協会というからにはもつとイラストレーターのためにやるべきこともあると思います。

昨年デジタル環境のアンケートを行ったのですが回収数が少なく活用することができませんでした。今年も、著作権などの問題を形を変えてアンケートを行いたいと思っています。デジタルでの流用や改訂の問題等に対応出来ればと考えています。お忙しいとは思いますが、よろしくお願い致します。



理事 蟹江隆広 (東京都)

私は岐阜県多治見市の高校を卒業後、関西大学の工学部機械工学科に入学しました。入学後、機械工学に興味を失ってしまい、自分が本当にやりたいことは何かを改めて考えました。

私は小学生の頃から体育と美術が好きでした。スポーツ選手に憧れていましたが、現実的ではないので、絵を描きたいと思いました。取りあえず大学在学中にイラストの通信教育を始めました。

最初はただの趣味でしたが、学んでいくうちに、これを職業にしたいと強く思うようになりました。だんだん大学に行かなくなり、部屋で絵を描いていました。まだ二十歳前のことです。

その後大学を中退して渡米しました。イラストの勉強の為といえは聞こえがいいのですが、実際は見聞を広げるのが目的といった方がいいと思います。この二年間のアメリカ滞在が、その後の私に大きく影響を与えたといっているでしょう。

帰国後東京デザイナー学院に入学しました。卒業後、エアブラシの会社に就職しましたが、一年半で止め、フリーのイラストレーターになりました。

当然コネなどなく、ゼロからの出発で



したから、なかなか仕事が取れず苦労しました。二年間ほど頑張りましたが、経済的に苦しくなり(株)シユガーというイラストの会社に入社しました。

入社後バブル景気に湧き、広告業界が絶好調になっていたため、イラストの需要も多かったです。忙しくて徹夜になることもしばしばでした。心身共に疲れ果て、二年で退社し再びフリーになりました。

それまでかなりの量の仕事をこなしてきましたから、フリーになってからも結構お仕事を頂きました。

私はリアルイラストを中心に描いていましたから、非常に時間がかかる訳です。大きな仕事を受けると一枚描くのにも一ヶ月以上かかることもあり、そんな時は他の仕事を受けられないのです。

一度仕事を断ってしまうと、二度と仕事をもらえないことが多いので、無理しても依頼された仕事を受けていました。当然一人ではこなせないで、アシスタントを雇い、若い人を育てていくうちに必然的に会社組織になりました。これは以前から私が望んでいたことです。フリーで一人部屋にこもって仕事をしたいでも楽しくないからです。

その後いろいろあつて日本イラストレーター協会設立にいたる訳です。



理事 竹村育貴 (秋田県)

本年度理事を担当させていただきました竹村育貴です。JIAは来年度三年目を迎えると同時に大学を卒業しまして三年目ともなります。

是非とも来年はJIAの活動としても自身の仕事の面でも実りある一年にしたいと思っております。

初めて私の名前を聞く会員の皆様もおられるかと思いますが、簡単にはありませんが自己紹介させていただきます。

私は、大学在学中に「インターナショナル・イラストレーション・コンペティション」で佳作を頂いたことがJIAとの出会いでした。

大学在学当初から、イラストレーターとして活動することを目標として、現在は実家のある秋田県を拠点に秋田県、岩手県や関東の仕事をしております。仕事の媒体としては、Webや放送関係の仕事と家業である看板業の仕事がメインとなっております。

主にイラストレーションとデザインの二本柱で仕事をこなしています。

今年の協会展には資格取得のため参加できませんでしたが、2006年の協会展には参加させていただきますので今から展示もJIAの皆様にお会いできることも大変楽しみにしております。

さて、来る2006年の目標はフットワークの良さをキープしながら仕事にのぞむことと自分のイラストレーションを



一枚でも多く描くことです。

大学在学中からもそうでしたが、今年までの自分を支えているのはやはり「フットワークの良さ」だった気がします。フットワークを良くすることは、人との出会いも活発になります。多くの人や表現に触れ、たくさん刺激を受け、イラストレーターとしての深みを増していけたらと思います。

まだまだ未熟な私ですが、やはりイラストレーションは「等身大の自分そのもの」である気がします。

いろいろと悩むことも多いのですが、自分を成長させることが自分のイラストレーションが成長することでもあると肝に銘じて進んで参りたいと思います。

そして、来年は一枚でも多くのイラストレーションを描けるよう机に向かう時間も今まで以上に大切にしたいと思えます。

最後になりましたが、2006年もJIAの会員として良い仕事を心がけて参ります。

JIAにはイラストレーターやデザイナーとしても経験豊富な先輩方が多数在籍されておりまして御指導の程よろしくお祈り致します。



理事 藤本知子 (高知県)

JIAの皆様新年おめでとうございませす。本年もどうかよろしくお祈りいたします。

この会は新しく、また若い方がたくさん入会されています。協会員を見回しても、どうやら私は高齢の部類になるのでしょうか。

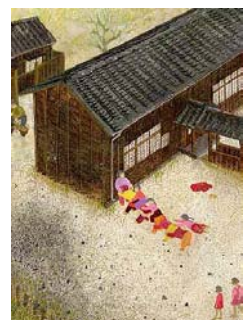
しかし本当は、皆さんの経歴とあまり変わらないのです。実は大きなブランクがあります。

独身の頃はデザイナーとして働いていましたが母が二十六歳の時に亡くなり、三人の子供の出産と実父が長い間寝たきりになり、母のいない悲しさを味わいました。また一人の姉は僻地へ転勤してしまいますので、三十歳から一人で家庭介護を続けていました。

現在のようなショートステイなどは、その当時は老人医療は無料だったので、寝たきり老人は無料で病院入院し、家庭で介護などしている若い主婦は珍しいとかで、市の広報の表紙になったり、TVが自宅へきて介護風景を撮影していったこともありました。

父の亡くなった平成元年に、ふと自分のことを思い「こんな自分でも社会復帰できるかな？」と暗澹たる思いでした。年齢的にも、もはや就職できる年齢ではありません。

その時、高校時代の友人から電話がかかり「教員免許を持つてるの？あるなら私の職場へ来て！」ということ、中学



校へ勤務し始めました。その頃は第二次ベビーブームの子供達で各学校は活気がありました。しかし、生徒減少、若い大卒の方の就職難になり六年前に身を引きました。その後は皆さんと同じ道を歩んでいきます。一つの絆を基に仕事をもらい、一つの仕事を丁寧にワールドを広げました。

自分の欠点は、若い女性を描いたことが無いこと。軽いタッチは描いたことが無いのですが、やはりイラストの世界で生きていくためにはオリジナリティが全て。人に無いイラストを追わなくてはなりません。夢は三つ。

一、高知在住ですから坂本龍馬のイラストを描けるようになる。

二、子供のレトロな世界を四季にいれ二枚描く。四国内の古校舎写真をたくさん頂いているのでモノにする。

三、民話関係の依頼が多いので、\*絵金のようにスピード感を取り入れる。

皆様と一緒に夢に向かって頑張ってくださいと思います。よろしくお祈りいたします。

\*絵金 江戸から明治にかけて実在した高知出身の絵師。謎に包まれた波乱万丈な生涯と迫力ある作品は多くの人達に愛され、今も高知各地に作品が残っている

## ● 理事長挨拶

蟹江隆広

私は一九八三年にイラストレーターになり、一九九〇年にイラストレーション制作会社(有)クレアを設立しました。その後イラストレーションのコーディネートなども始め(株)クレアに組織変更しました。日本でも数少ないイラストレーションのエージェントとしては老舗の一つです。

この会社を通して数百名のイラストレーターと知り合い、毎年数百件もの仕事に携わってきました。この仕事の中で理不尽な目にも随分会ってきました。

欧米ではレップと呼ばれるイラストレーションのエージェントを通して仕事を発注するのが普通です。エージェントがマネジメント等を行って行く為、イラストレーターの地位が高く保たれています。その点日本は遅れていて、今でこそいくつかエージェントができていますが、イラストレーターの地位向上に余り役に立っているとは言えません。

私は日本のイラストレーターの地位を上げたいと思い、一九九九年に日本イラストレーター協会を設立しました。二〇〇四年にようやく会員数が一〇〇人を超え、私は(株)クレアを後進に任せ、日本イラストレーター協会の仕事を中心にやっていくことにしました。現在は会員数一二〇余りの団体になりました。目標としては一万人規模の協会を目指しています。ある程度規模が大きくなると、大きなイベントも開催できませぬし、業界の中での影響力も小さいからです。

今後は理事の皆さんにどんどん新しいアイデアを出して頂き、会員の皆さんにもっと協力して頂いて、幅広い意義のある活動を行えるようにしたいと考えています。

今年もよろしくお願い致します。

## ● 日本イラストレーター協会の歩み

一九九九年	四月	設立
	四月	ホームページの開設
二〇〇一年	一月	JIA通信を開始
二〇〇〇年	六月	第一回インターナショナル・イラストレーション・コンペティション開催
	十二月	年度賞の制定
二〇〇三年	六月	韓国出版美術協会と交流会を開催
二〇〇四年	四月	JIAのロゴを制作
二〇〇四年	十月	会員数が百名を突破
二〇〇五年	三月	事務局を新宿区に移転
	五月	第一回日本イラストレーター協会展
	四月	認定証と会員証の発行開始
二〇〇六年	一月	第一回会報発行

## ● 二〇〇六年行事予定

一月	第一回会報発行 交流会(新年会)
二月	二〇〇五年、年度賞の発表
四月	新理事の就任 交流会(花見)
五月	第二回日本イラストレーター協会展
六月	第七回インターナショナル・イラストレーション・コンペティション
八月	コンペの受賞者発表 交流会(納涼会)
十月	交流会
十一月	第一回日本イラストレーター協会年鑑の発行
十二月	二〇〇六年、年度賞の作品募集